

公同礼拝

2024年5月5日(日) 午前10時30分

午後4時

司式 牧師 姜 徑米
奏楽 河野和雄 香西愛

前 奏

招 詞 詩 編 51編12～14節

讃 詠 546

主の祈り

聖 書

詩 編 118編22～29節 (旧958)

マタイによる福音書21章33～46節(新42)

祈 禱

使徒信条

讃 美 歌 6

説 教 「恵みを殺す思い」 牧師 高橋和人

祈 禱

讃 美 歌 332

聖 餐 式

献 金

頌 栄 541

祝 禱

後 奏

起立が困難な時は着席のまま礼拝します。
礼拝は前の方から静かに着席しましょう。

5月の祈り

復活の主の昇天とペンテコステの聖霊降臨を覚え、今生きるキリストの体としての教会の歩みを確かなものとするができるように。

聖霊に導かれて礼拝が充実されるように。

祈禱会を重んじ、聖書の言葉に導かれる信仰生活となるように。

高齢や体調などにより礼拝に集うことがかなわないでいる兄弟姉妹たちを覚えて。

震災の地の教会と人々を覚えて。戦争と紛争の地に平和がもたらされるように。

今日の祈り

それぞれの日々の歩みが礼拝に裏付けられ、主の恵みを見出し、数えることができるように。

愛する家族を主の御許にゆだねた人々に、慰め主なる聖霊が悲しみを負ってくださるように。

教会のため、求道者のため、礼拝に集まることに困難な人々のため、未陪餐会員のために。

「恵みを殺す思い」 高橋和人

マタイによる福音書21章33～46節

主イエスはたとえを語られた。難しい言葉はなく、親しみやすい情景がある。しかし、主のたとえは考えさせる。分かりやすくはない。ぶどう園は旧約にたびたび登場し、神と民との関係が示される。

ここでも、農園の主人は神であり、ぶどう園の農夫はイスラエルである。神はその実りを求め、僕として預言者を遣わすが、迫害される(王上19:10 歴下24:18-22 エレ38 使徒7:52)。

さらにこの主人は自分の息子を送るが殺されてしまう。これは、主イエスが神の子であり、十字架につけられて殺されることを示す。旧約と御自分の受

難について語られている。主人は一方向的に農夫を信頼し、農夫はたちは強欲で残忍だ。神のものを自分のものとして譲らない。その実りをわがものとしようとする。

主イエスの「どう思うか」という問いに、民の指導者たちは「農夫たちは殺され、ぶどう園は他のものに任せられるべきだ」という。彼ら自ら答えを出している。

主は詩編118を引用し、御自分を「石」に例え、「神の国はあなたたちから取り上げられ、それにふさわしい民族に与えられる」と言われた。

1ペトロ2:4-5には「この主のもとに来なさい。主は、人々からは見捨てられたのですが、神にとっては選ばれた、尊い、生きた石なのです。あなたがた自身も生きた石として用いられ、霊的な家に造り上げられるようにしなさい。」と受け止められている。そして、「かつては神の民ではなかったが、今は神の民であり、憐れみを受けなかったが、今は憐れみを受けている」(10)と石であるキリストの救いの恵みを語る。

教会は新たな神の民とされた、教会は主イエスの治める神の国に生きている。そのとき、主が問われていることを思い起こさなければならない。それが「神からのものか、人からのものか」だ。しかし、すべてのものは神の恵みによる。すると、どのような時にも、神の恵みを見出すことにこそ神の国に生きるあり方がある。

喜びの時も、悲しみと困難な時も、不信仰な時であっても、主は憐れみ、われらのため十字架を負われている。主に信頼し、委ね、任せることに主は応え寄り添ってくださる。自分を神のものとし、神と共に生きるこそ、われらの実りとなる。